

## 他都市の取組事例

### 1 子ども向けオンライン日本語教室（福岡県北九州市）

- ・ 6歳から高校生の子どもの対象に毎週土曜日午前中の1時間、学校の日本語クラスの宿題や各教科の分からない日本語の勉強をしている。
- ・ 夏休み期間には大学生ボランティアが宿題をサポートする事業も実施している。

### 2 子育て相談窓口（栃木県小山市）

- ・ 一般の外国人相談窓口とは別に設置している。子育て中の親子を対象に、英語、ポルトガル語、スペイン語で相談に応じる。
- ・ 相談員が親に日本語を教えるクラスも実施している。広報誌の発行や、夏休み期間には大学生ボランティアが宿題をサポートする事業も実施している。

### 3 地域共生事業（静岡県浜松市）

#### (1) 自治会への個別支援

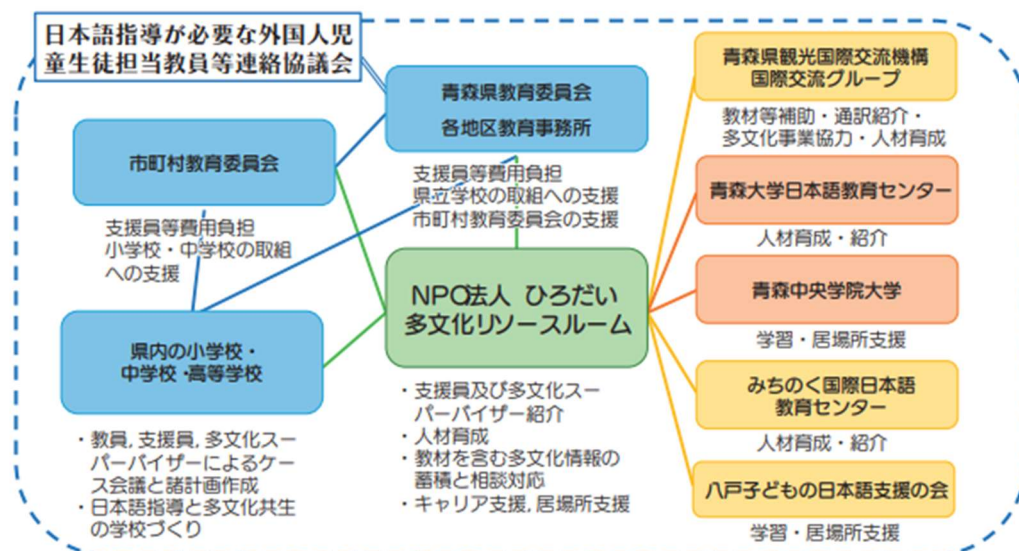
- ・ 自治会からの翻訳・通訳等の依頼に応じる。
- ・ 最近では、外国人があまり多くない地域に戸建て住宅を建てるケースが増えており、自治会に入る案内を翻訳してほしいという依頼も多い。
- ・ 近隣トラブルに関する相談があれば、国際交流協会の職員が現地に赴き話を聞く。

#### (2) 地域共生自治会会議

- ・ 自治会長を対象に年1回、研修会のような形で実施している。
- ・ 外国人がどういう思いで暮らしているかという講話や、5～6人のグループに1人相談員が入りワークショップをしている。

### 4 外国につながる子どもの教育支援（青森県）※中石委員情報提供

- ・ 日本語指導が必要な子どもを担当する教員を支える体制が構築されている。



(出典：青森県版外国につながる子どもの教育支援ガイドブック)

- ・ オンラインによる高校進学ガイダンスが、NPO 法人主催、教育委員会共催で行われている。
- ・ 指導者が困った時、子供の支援に関する相談や言語力評価を依頼できるスーパーバイザーの制度と教材のリソースルームがある。

#### **5 中国人ママクラブ（広島県呉市）※中石委員情報提供**

- ・ 外国人当事者が継承語（中国語）を使った子育て・教育活動を行っている。

#### **6 子どもの日本語教育支援「ばら教室 KANI」（岐阜県可児市）※河本委員情報提供**

- ・ 日本の小・中学校に初めて就学する日本語指導が必要な外国籍児童生徒は、まず約 3 か月から 6 か月「ばら教室 KANI」に通い、基礎的な日本語や算数・数学などを学習する。
- ・ 学校生活に適応できるよう、学校のルールも学ぶ。また、箸の使い方など、日本の文化や習慣に関しても学ぶ。